新任薬剤師研修会を終えて

下志津病院　藤田　飛龍
出身大学：東邦大学（2023年）

今年度より下志津病院に配属となりました藤田飛龍と申します。実際に働き始めて、自らの知識不足を痛感しておりますが、先輩方に助けて頂きながら奮闘する日々を過ごしています。

今回参加させて頂いた第26回新任薬剤師研修会についてですが、医療安全をテーマとして、講演及びグループ研修が行われました。

医療安全の講演については、歴史や具体的な医療事故例を学ぶと共に、「人は誰でも間違える」との考えのもと、どのように患者の安全を守るかについてお話をしていただきました。講演の中で私が印象に残った点は、インシデントの要因の約半数が「確認・観察怠った」、「判断を誤った」等の専門知識によらないノンテクニカルスキルによるものであるという事です。私自身、経験不足や不注意等によるミスが多く、そのほとんどがノンテクニカルスキルに当てはまるものでした。確認するのは自分であるという意識を常に忘れず、日ごろから基本・確認行為を忠実に実行していくことを心掛けていきたいと思います。

グループ研修では医療チームのコミュニケーションとチームワークスキルを強化するためのシステムである「Team STEPPS」を用いて、グループワークを行いました。内容としては、「Team STEPPS」の中核をなす①リーダーシップ②状況モニター③相互支援④コミュニケーションの四点について、それら要素をいかすための方法を学び、グループワークにて実践するというものでした。私がこのグループ研修で特に学びを得たのは二つです。

一つ目は、コミュニケーションツールの一つであるSBAR（“状況”、“背景”、“アセスメント”、“提案・要求”の英単語の頭文字をとった略語）というものです。これは、医療者チーム間でのコミュニケーションにおいて、どのような要素を伝えると効果的かを明示したもので、これによりスムーズな情報伝達を行うことが可能となります。私は実際の業務において、先輩方への報告や医師への問い合わせをする際に順序だてて物事を説明することに苦手意識を持っていましたが、この手法を日々の業務に取り入れることで、以前よりも情報伝達がスムーズになったと感じております。

二つ目は、相互支援のツールであるCUS（“気になります”、“不安です”、“安全の問題です”の英単語の頭文字をとった略語）というものです。これは、自分が感じていることを率直に発言するために行うもので、これを活用する事で不安を相手に伝えられないという状況を避ける事が出来ます。私は、入職してから４ヶ月が経ちますが、私自身の勉強不足もあり、まだまだ分からない事や不安に感じる事が多くあります。自分が感じた違和感を伝える事も医療安全に繋がる事を忘れず、些細な違和感でも躊躇わずに確認を取っていきたいと思います。

今回の研修を通して、医療安全の基本やチームワークスキルを学ぶことができ、とても充実した研修を受ける事が出来ました。まだまだ知識も経験も足りず、力不足を実感する毎日ですが、誰からも信頼される薬剤師となれるよう精進していきたいと思います。

最後になりましたが、本研修会を開催してくださった先生方、日頃から丁寧なご指導をいただいております下志津病院の先生方にこの場をお借りして御礼申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い致します。